

確かなまなびと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

堺市立津久野幼稚園
園長 上岡 万利子

令和7年度 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の安全・安心を基盤とし、全職員の共通理解のもと、幼児に知・徳・体のバランスのとれた力を育み、楽しい幼稚園をつくる。 ・ 幼児が遊びや生活を通し、生涯にわたって主体的に生きていく力の基礎を養う。 ・ 学力や生きる力につながる、非認知的能力を育む。 <p>【研究テーマ】「やってみよう！」心動かし主体的に活動する子どもをめざして ～幼児理解と環境づくり～</p>
-------------------	---

まなびの現状	こころ・からだの現状
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな体験活動や地域社会との積極的な関わりにより、学びの土台となる意欲が育っている子どももいれば、愛着形成に課題があり、安心して過ごせない子どもや多様な支援を必要とする子どももいる。子どもの実態に合わせてカリキュラムを常に見直し、どの子どもも安心できる環境づくりを園全体で進めていく。 ・ 個に応じた支援の工夫や、子どもの自立や自己肯定感につながる親子の関わりでの啓発も含め、研究実践園としてインクルーシブ保育を推進し、子どもが主体的に活動する力を育んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な支援を必要とする子どもの割合が増加していること、個人差が大きいことをふまえ、支援計画を作成し関係機関や早期支援のシステムを生かして、個の支援を行いながら集団づくりにつなげていく。 ・ 自発活動において積極的に体を動かすことで基礎体力は身につけている。しかし、手先の巧緻性や体のバランス感覚に課題の見られる子どももいるので、多様な保育活動を通し、楽しいと感じながら能力を伸ばせるように保育を行っている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	遊びの創造	身近な自然や人に興味をもち、意欲的に遊べるようにする。	●様々な体験活動や心が動く遊びを通して主体性を育み、確かな学びにつなげる。	保護者の80%以上が肯定的評価	保護者アンケート 保育観察	年度末	◎ 子どもの実態に合わせて、これまでの経験や感覚が本懐をもちに、様々な保育内容や環境構成を工夫している。一人ひとりの思いやペースに合わせて遊びや学びを大切にしながら、どの子どもも安心して活動できる環境づくりを行っている。	◎	◎
			子どもの実態に応じたどの子どもも安心して遊べる環境づくりを行う。	学びとのつながりを、定期的に園全体で評価する。	カリキュラム 保育観察			◎	◎
	保育力	教師の保育実践力の向上をめざし、個に応じた支援を行う。	個々の発達状況に合わせて養護・教育の観点を意識した支援を行い、インクルーシブ保育を進める。 3歳から5歳までの非認知的能力の育ちを共有し、小学校教育への円滑な接続につなげる。 ●子どもの実態に応じた細やかな見取りを共有しながら環境のあり方を研修する。	研究保育を行い、園全体で成果と課題を共有する。	研究保育 保育観察	年度末	◎ ○ ◎	◎ ◎ ◎	造形表現の全国大会では、日頃の保育実践の積み重ねを発揮し、参加された他園の先生方も大いに学びた様子だった。教員間のチームワークが良く、担任を核として、子ども理解を深め、日々、支援のあり方を学び合っていることに感心する。先生方の保育力が向上し、お互いに認め合い、園としての評価もとても高い。地域の子も園や小学校などの教育機関が本園の取り組みを幼児教育のモデルとして評価していることが、研究会等での外部の方々からの反応から実感できる。積み重ねてきた本園の取り組みの成果である。
豊かな心・健やかな体	自己の発達	いろいろな人とふれあい、より良い人間関係を育む。	意図した異年齢活動を通し、お互いを知り、多様性を育む。こども園や小学校、地域の方々との直接的や間接的な交流をおとして、人と関わる力を育む。	保護者の80%以上が肯定的評価	保護者アンケート 保育観察	年度末	◎ ◎	◎	◎
			●個別の支援をしながら、互いを認め合える集団づくりを行う。					◎	◎
	体づくり	健康・安全に対する意欲を高め、健康な体をつくる。	毎月の避難訓練や安全指導を通して、「自分の命は自分で守る」意識を育てる。 基本的生活習慣の定着に向けて個に応じた支援を行う。 ●遊びを通して体を動かす楽しさを感じさせ、多様な動きができるような体づくりを行う。	保護者の80%以上が肯定的評価	保護者アンケート 実態把握	年度末	◎ ○ ◎	◎ ◎ ◎	子どもたちの実態から、生活習慣・体づくり・安全への意識など、個々に応じたきめ細やかな支援をこれからも継続していくと思われ、保護者の評価からも理解が得られていることを伺い知ることができる。避難訓練について、年間を通じて行っていることを評価したい。園庭で遊んでいる子どもたちを見るたびに、楽しく体を動かして取り組んでいる姿が素晴らしい。
子育て支援	家庭・地域との連携	預かり保育や親育ちの場・未就園児招待等を活用して、子育て支援センター的役割を果たす。	●子育て支援の一環として、預かり保育の活用を促す。未就園児招待や園庭開放の実施やHP等での情報発信を行う。 教育相談を実施するとともに、関係諸機関や地域人材と連携し、親がともに育つ場を設定する。	保護者の80%以上が肯定的評価	保護者アンケート 実施状況	年度末	◎ ○	◎ ◎	預かり保育では家庭的な雰囲気の中、子ども一人ひとりの思いを大切に保育をしていて、保護者がいつでも安心して子どもを預けることができるように、そして降園時には子どもの育ちを保護者と共有し、子育て支援を行うことができた。未就園児招待では、親子で楽しむ遊びや保護者同士がつながる場を提供することができた。HP等で情報発信することもできた。

園長より 研究実践園として、教職員全員で個々の子どもと集団の発達を細やかに見取る幼児理解に努め、子どもが主体的に活動・遊びに向かう環境づくりや支援のあり方について研究し、保育の充実を図ることができた。今後子どもに寄り添いながら、より充実した園生活を送れるよう、保護者の方や地域の方々にもご協力いただきながら充実させていきたい。子どもたちが生き生きと遊ぶ中で様々な学びのある公立幼稚園として、さらに質の高い幼児教育を研究し発信していきたいと考える。	学校関係者評価者から 教職員・保護者・園児のつながり、バランスを高く評価する。子どもの自己肯定感を伸ばし、教師の指導力も伸び、研究実践園としての役割を充分に果たしている素晴らしい園である。「主役は園児」「結果より過程」「遊びから学ぶ」「活動後の振り返りの大切さ」などの意識を、個々の教職員がバラバラではなく、公立幼稚園の「組織の一員」として共有し、細やかな気配りが互いにあるので、安心して子どもを預けられる幼稚園となっている。
---	---